

酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす

FINE FINET

ファイネット発行

2020

Vol.52

Winter

[NEW YEAR TOP MESSAGE]

2020年 年頭にあたって

株式会社ファイネット
代表取締役社長
大谷 邦夫

[FINET INFORMATION]

「統一取引先コード管理サービス」 を開始!

商品情報授受標準化会議 (PITS)について

[FINET INTERVIEW]

「統一取引先コード管理サービス」 への期待



2020年 年頭にあたって

NEW YEAR TOP MESSAGE

会員企業の皆様、新年明けましておめでとうございます。

旧年中はファイネット事業に一方ならぬご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

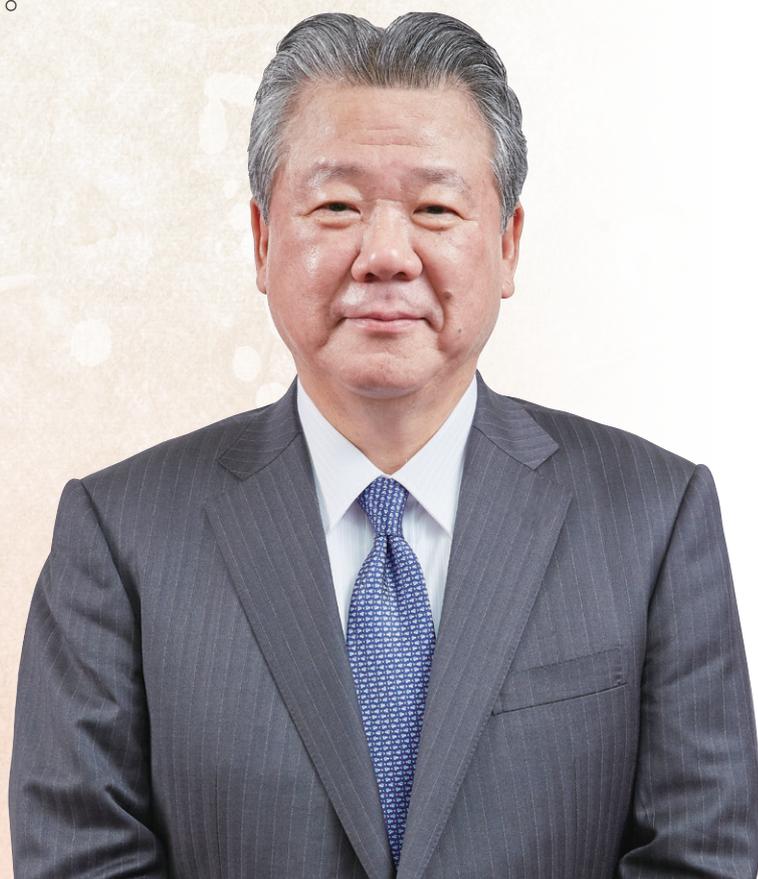
酒類・加工食品業界を取り巻く環境は、労働力不足を背景に人件費や物流費が上昇するとともに、原材料の価格上昇が顕在化しており、厳しい状況で推移しました。このような事業環境のもと、昨年サービス基盤の大幅リニューアルを実現し、新たに統一取引先コード管理サービスを開始するなど、弊社にとっては大きな変化の年となりました。

本年も引き続き「円滑なサービス運営」「顧客満足度の向上」「標準化推進活動を通じた業界貢献」の3つの指標を事業目標に掲げ、中期経営計画の達成に向けて全社一丸となって取り組む所存でございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

大谷邦夫



「統一取引先コード管理サービス」を開始!

メーカー・卸間のEDIで利用する取引先コードのさらなる標準化を目指して、2019年10月に当社の新たなサービスとして「統一取引先コード管理サービス」を開始しました。

統一取引先コードとは?

商品流通VANサービスでご利用いただいている一般社団法人日本加工食品卸協会が定めたデータフォーマット(日食協標準EDIフォーマット)にて、標準コードの一つとして規定された事業所/物流拠点/店舗などの場所を表す8桁のコードです。現在、約43万件のコードが登録されています。

■コード体系



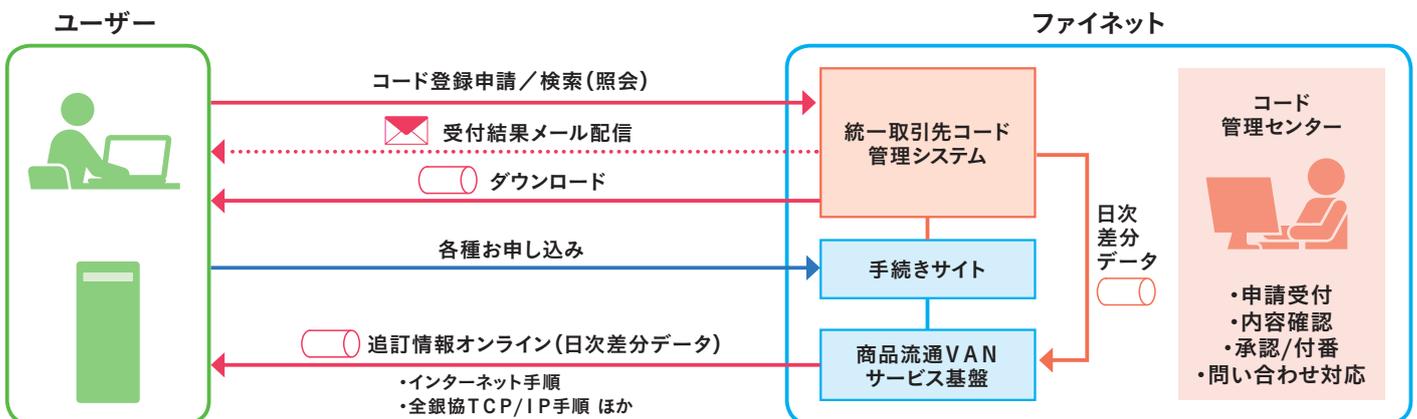
■登録可能範囲

- ・酒類・食品(飲料を含む)を扱うメーカー・卸売業・小売業を営む企業やその店舗および拠点
- ・その他、特に当社が必要と認める企業の店舗および拠点
- ※酒類・食品(飲料を含む)の取り扱いがない商品流通VANサービス利用企業等

統一取引先コード管理サービスについて

統一取引先コードを登録申請/検索/出力できるサービスです。

これまで、統一取引先コードの付番・管理に関する業務は、1985年に設立された酒類食品全国コードセンター(以下SSZCC)が行ってまいりましたが、SSZCCからの依頼を受けまして、当社に業務が移管されました。



■サービスの特徴

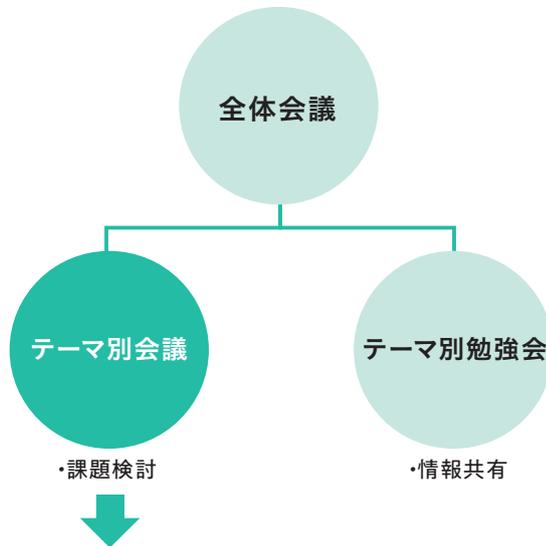
- ・Webサイト「統一取引先コード管理システム」から、随時コードを登録申請/検索/出力いただけます。
- ・日次の差分データを定型データフォーマットでHost接続にて配信する機能「追訂情報オンライン(※)」がございます。
- ・申請されたコードの受付・登録、および、コードの申請・登録内容やシステム操作等に関するお問い合わせは、当社で設置しました「コード管理センター」にて対応いたします。
- ・当サービスは、商品流通VANサービスユーザーであれば無料でご利用いただけます。

(※)追訂情報オンラインのご利用には、手続きサイトよりご利用のお申込みが必要です。

統一取引先コードの普及推進に向けて

統一取引先コード付番ルールの維持管理および統一取引先コードの普及推進に向けて、当社が事務局を務める「酒類・加工食品業界標準化推進会議（全体会議）」の配下にあるテーマ別部会に、統一取引先コードに関連する2つの部会を立ち上げ、様々な活動を行っています。

■酒類・加工食品業界標準化推進会議



〈参加企業〉メーカー22社、卸8社

- ・標準化全般の検討（他業界、業界団体の情報共有）
- ・検討テーマの選定および方向付け、テーマ別会議の設置判断
- ・テーマ別会議からの検討内容の確認、追認など

◆統一取引先コード運営部会※・・・2019年11月～

参加企業	メーカー9社、卸6社（主にSSZCC運営委員で構成）
目的	統一取引先コードの付番ルールに関する協議、意見調整等（前身となるSSZCC運営委員会の一部機能を引継ぐ）
活動状況	・第1回統一取引先コード運営部会を2019年11月26日に開催。今後の会議運営方針を決定

※統一取引先コード運営部会・・・統一取引先コードの付番・管理業務がSSZCCから当社に移管されたことに伴い設置

◆統一取引先コード利用促進部会・・・2016年7月～

参加企業	メーカー8社、卸4社
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・統一取引先コードの実活用に至っていない企業が、今後活用していく上での課題と解決策、運用ルールを整理する ・本会議体のメンバーが率先して実務で活用していく
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既に統一取引先コードを活用している企業の運用実態確認 ・統一取引先コードを活用していくにあたっての課題整理 ・実活用を加速させるための実証実験の実施 <ul style="list-style-type: none"> →机上シミュレーションによるコード活用のメリット探究 →先行活用による効果検証 ・実活用に向けたアクションプランの策定

より多くの企業が、企業間のEDIにおける標準コードとして統一取引先コードを利用することで、各社におけるコード変換やコード管理などの効率化、省力化が期待されます。

受発注、出荷案内データにおける届け先コードや販売実績データにおける小売店舗コードなどに、是非ご活用ください。

「統一取引先コード」に関するお問い合わせ先

ファイネット 企画部 TEL: **03-5643-3430** (平日9:00～17:30)
Mail: planning@finet.co.jp

「統一取引先コード管理サービス」への期待

キリンビジネスシステム株式会社
システム基盤統轄部
ワーキングスタイル変革グループ
担当部長 辻 佐知 様



酒類業界のメーカー/卸売業を中心に長く活用されている「統一取引先コード」。これまでその付番管理は「酒類食品全国コードセンター(SSZCC)」が担ってきましたが、2019年9月30日より、ファイネットの「統一取引先コード管理サービス」に移行しました。これまでの経緯と今後の期待について、SSZCC最後の運営委員長に伺いました。

自社の取引先コードとして利用

—はじめに、キリングroup様における統一取引先コードのご利用状況についてお聞かせください。

辻 統一取引先コードは、キリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンをはじめとするキリングroup共通の自社取引先コードとして利用しております。日々、卸店様から販売実績データを取得しておりますが、小売店情報は統一取引先コードをキーに管理しております。また、物流系情報である受発注や出荷案内データにおいても、納品先や帳合先情報として統一取引先コードを利用しております。

—自社の取引先コードとして利用されているとのことですが、そうされた背景についてお聞かせください。

辻 酒類業界では、1980年代には大手メーカー・卸店間を中心にEDIが実施されており、その頃から多くの企業で、相手先プライベートコードから自社プライベートコードへの変換作業に多くの人手がかかっていて、大きな課題となっておりました。解決策として、業界共通の取引先コードを作ろうということになり、1985年に酒類食品全国コードセンター(SSZCC)を設立して、統一取引先コードの付番・管理を行っていくことになりました。キリングroupでは設立当初からSSZCCの運営に参画させていただき、いち早く統一取引先コードを自社の取引先コードとして採用し、業務効率化を進めて行くことになりました。

スピーディな販売実績の反映に貢献

—統一取引先コードと卸店プライベートコードとで、マスタメンテナンスの作業時間にどれくらい差が出るものなのでしょうか？

辻 取引先コードの管理については、グループ全体でキリンビジ

ネスシステムに集約しております。販売実績データを受信する際に発生する小売店コードの変換エラーを例に挙げましょう。

まず、キリングroupでは、統一取引先コードを自社コードとしているため、統一取引先コードであれば、販売実績データを通じて初めて受信するコードであっても、どのコードがどの店舗であるかの情報をあらかじめ整備しておくことが可能であり、この事前整備により変換エラーを大きく削減できます。

一方で、卸店プライベートコードは過去に受信したことのないコードであれば、すべてエラーとなります。よって、卸店プライベートコードによる変換エラーの発生率は、統一取引先コードと比較して、23倍強となっております。エラー1件当たりの救済作業時間は両者ではほとんど差がありませんので、両者のエラー発生件数に比例してエラー救済の作業時間がかかることとなります。受信レコード数の割合は、統一取引先コードの8割に対し、卸店プライベートコードは2割の状況ですが、エラー救済総作業工数は、上記のエラー率の関係で、卸店プライベートコードは統一取引先コードの4倍以上となっております。

—マスタメンテナンスがスムーズになるということは、営業のみなさまの販売分析がスムーズになるということですね。

辻 営業部門では、特に新店の開店や新商品の発売時など、販売初日の実績動向をいち早くキャッチしたいという強いニーズがあります。小売店コードで変換エラーが発生しますと、営業部門に対する販売実績の反映が、データ受信の翌日から翌々日に降に遅れることになり、営業活動に貢献できなくなります。

私はキリンビジネスシステムの一員として、コード変換エラー対応に奮闘している現場にいましたが、営業部門からの期待がとても大きいことを、日々肌で感じておりました。統一取引先コードを自社コードとして利用していることの意義はとても大きいと考えております。

会員に支えられ情報はいつでも新鮮

——昨年まで、SSZCC運営委員長として、統一取引先コードの普及推進にご尽力いただきました。これまでのコード利用状況や課題についてお聞かせください。

辻 SSZCCは会員制による任意団体として設立されております。会員数は114社で、酒類メーカー様や酒類を扱う卸店様が会員の多くを占めております。登録コード件数は約43万件に達し、国内の小売店舗はほぼ100%網羅できております。

統一取引先コードは、会員自身が新規、訂正、抹消等の申請を行います。酒類や食品の販売先は日々変化しておりますが、取引の当事者である会員のみなさまにより、最新の情報を申請いただいているため、マスタ情報の精度は高いレベルを維持できています。参考までに、直近1年における申請件数の傾向は月間2,000件規模でした。

課題については、食品メーカー様や食品の取り扱いをメインとする卸店様での普及が進んでいない点です。新たにEDIを始める際など機会があれば、統一取引先コードのご利用を勧めて参りましたが、道半ばという状況です。

ファイネットへの業務移管に向けて

——統一取引先コードの付番・管理業務をSSZCCからファイネットに移管することになりました。その経緯についてお聞かせください。

辻 長年、統一取引先コードの付番・管理業務および各種会議体の事務局業務を行っていただいていた委託先様より、SSZCCの運営業務について受託を終了したいとのご相談をいただきました。このご相談をいただいた際、現在普及している統一取引先コードが利用出来なくなることによる業界への影響がどこまで及ぶのかという不安が頭を過りました。

これを受けて、すぐさま、SSZCC運営委員会を招集し、SSZCCの運営をどうすべきかについて検討することになりました。運営業務の委託先選定の条件として、①酒類・加工食品業界に精通し、②企業間情報の標準化・業務効率化を推進でき、③取引先コードの統一化やコード管理の重要性を十分に認識いただき、④継続的且つ安定的にシステムサービスが提供できる企業が良いということになりました。

検討を重ねた結果、企業間データ交換サービスで統一取引先コードを採用しており、また、「酒類・加工食品業界標準化推進会議」での取り組みとして統一取引先コードの普及

推進活動を展開しているファイネットしかないという結論に至りました。

ファイネットに業務引き受けのお願いをさせていただき、ファイネットのサービスとして引き受ける方向でご検討いただくことになりましたので、その後協議を重ね、2018年6月のSSZCC会員総会にて、ファイネットへの業務移管を正式に決定いたしました。

——SSZCC運営委員長を務められた際に、ご苦労されたことはございますか？

辻 やはり、統一取引先コードの付番・管理業務の移管対応で苦労をいたしました。本件に関する会員のみなさまのお考えは様々でした。これらのお考え、ご要望を踏まえながら、運営委員のみなさまとともに、どの企業に業務を委託すべきか検討を重ね、何とか最終方針をとりまとめるに至りました。今までに、多くの企業に跨ってひとつの方針を導き出すような仕事を経験したことがなく、自身にとって貴重な経験となりました。

業界全体のビジネス円滑化を目指して

——最後に、ファイネットへの期待についてお聞かせください。

辻 ファイネットへの業務移管を機に、商品流通VANサービスユーザー様が無料で統一取引先コードを利用できるようになり、とても感謝をしております。サービス利用の無料化に伴って、酒類業界のみならず、食品業界についても、より活発な普及推進活動を進めていただけたらと思います。

統一取引先コードの存在が幅広く業界に浸透することで、EDIデータにおける利用が増え、1日でも早く、プライベートコードが減ったよねということが実感できる状態に持っていければと思っております。

物流領域では誤配送の防止など物流全般の業務効率化を、また、営業領域では販売実績データのエラー対応削減による営業へのスピーディな実績反映と、販売促進金データのさらなる利用促進を目指すことで、業界全体におけるビジネスの円滑化に拍車をかけられたらと思います。

——引き続き、「酒類・加工食品業界標準化推進会議」での活動を通じ、コードの標準化に対するみなさまのご期待に沿えるよう、取り組んで参ります。本日は、貴重なお話しをお聞かせいただき、ありがとうございました。



CORPORATE PROFILE

グループ経営理念：ミッション

社会における永続的、長期的なキリンの存在意義

キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよるこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します

お客様の求めるものを見すえ、自然のもつ力を最大限に引き出し、それらを確認なかつたちとして生み出していくモノづくりの技術。私たちは、こうした技術によって、お客様の期待にお応えする高い品質を追求してきました。これからも、「夢」と「志」をもって新しいよるこびにつながる「食と健康」のスタイルを一步進んで提案し、世界の人々の健康・楽しさ・快適さに貢献していきます。



商品情報授受の標準化に向けた業界の取り組み

商品情報授受標準化会議(PITS)について

当社は、商品情報授受標準化会議(PITS)の事務局として、商品情報授受の効率化・標準化を支援しています。

PITS(ピッツ)とは？

2013年5月に設立された商品情報授受標準化会議(Product Information Transfer Standard)の略称。

食の安全・安心に対する関心の高まりを背景に、年々、商品情報フォームの種類が増え続ける中、このような動きに歯止めをかけるべく、業界標準となる商品情報の項目定義およびフォームを策定し、その普及を目指している、製・配・販3層および業界団体・データベース事業者などで構成される有志の企業・団体45法人による会議体です。

成果物「PITS標準項目」、「PITS標準フォーム」について

法令や食品流通の商習慣などを考慮し、平成26年度農林水産省補助事業「標準商品規格書とそのガイドラインの検討会」を通じて、基本的なマスタ系情報と品質系情報からなる業界標準の商品情報項目およびフォームを策定。この内容に準拠して、PITSの成果物として「PITS標準項目」、「PITS標準フォーム」を整備しました。

■PITS標準項目(第2版)

項目ID	項目名	項目種別	属性	単位	注記	備考	標準項目
1	メーカーコード	マ	9			10桁の数字で表す。1桁目はメーカー種別を示す。	○
2	メーカー名称	マ	100			100文字以内で表す。	○
3	商品コード	マ	10			10桁の数字で表す。	○
4	商品名称	マ	100			100文字以内で表す。	○
5	商品説明	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
6	原材料	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
7	栄養成分	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
8	アレルギー	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
9	保存方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
10	賞味期限	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
11	製造年月	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
12	製造場所	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
13	製造工場	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
14	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
15	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
16	製造方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
17	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
18	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
19	製造方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
20	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
21	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
22	製造方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
23	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
24	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
25	製造方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
26	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
27	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
28	製造方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
29	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
30	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
31	製造方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
32	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
33	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
34	製造方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
35	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
36	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
37	製造方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
38	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
39	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
40	製造方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
41	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
42	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
43	製造方法	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
44	製造設備	マ	1000			1000文字以内で表す。	○
45	製造工程	マ	1000			1000文字以内で表す。	○

↑商品情報のうち、基本的なマスタ系情報+品質系情報からなる100項目とその定義を定めたもの

■PITS標準フォーム(第2版)



↑PITS標準項目のうち、商品規格書として必要な89項目をA4版サイズ1枚で表現した規格書フォーム

製造業



個別対応がどんどん増加。提出するのに時間がかかる・・・
→いつでも誰でも出せる標準項目なので対応が容易に!

卸売業



項目もフォームもみんなバラバラ・・・これでは管理が大変・・・
→項目・フォームが統一され、管理がとても容易に!

外食業
小売業など



提出されたフォームに抜けがあったり、提出が遅かったり・・・催促するのも面倒・・・
→どのメーカーでも提供できる項目なので、収集がスピーディーに!

消費者(喫食者)への 安全安心&業界品質の向上



消費者(喫食者)

「PITS標準項目」、「PITS標準フォーム」は使用権フリーなので、どなたでもご利用いただけます。
是非ご活用ください! ファイネットホームページから閲覧・ダウンロードいただけます。

<https://www.finet.co.jp/hyoujiyunka/pits.html>

PITSに関するお問い合わせ先

PITS事務局(ファイネット企画部) TEL:03-5643-3430(平日9:00~17:30)

Mail:planning@finet.co.jp

FINE FINETの送付先等の変更について

今回、ご送付いたしております「FINE FINET(ファイン・ファイネット)」の宛名や部数の変更等がございましたら、以下までご連絡ください。

【連絡先】

株式会社ファイネット 営業推進部

Tel.03-5643-3450

e-mail marketing-promotion@finet.co.jp

ファイネットでは、「インターネット手順」への移行を推進しています

東日本電信電話株式会社および西日本電信電話株式会社(以下、NTT東西)の公表内容

- ・公衆交換電話網(PSTN)からIP網への移行を2024年1月より開始
- ・同時にINSネット(デジタル通信モード)の提供を終了

これにより長い間EDI通信で利用されてきた「全銀協TCP/IP手順」などの従来手順が、ご利用いただけなくなる可能性があります。

さらに、NTT東西以外のISDNサービスをご利用の場合は、2023年1月から処理遅延が発生する可能性についても示唆されています。

これに伴い、弊社では「インターネット手順」への移行を、**2022年12月までに**実施いただくことを推奨しております。手順移行に関するご質問・ご相談等ございましたら、ヘルプデスクまでお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

ファイネット ヘルプデスク



0120-091-094 (年中無休7:30~23:00)

ご担当者情報を最新の状態に保つためにご協力をお願いいたします

弊社では、サービスに関する重要なお知らせをお届けするため、ご加入ユーザー様にはデータ交換に関する窓口の登録を行っていただいております。

お忙しいところお手数をお掛けしますが、手続きサイトより「担当者登録状況」をご確認のうえ、ご担当者の登録情報に変更がある場合は、お早めに手続きを行っていただきますようお願いいたします。

【お申込方法】

- ①弊社、手続きサイトからお申込ください。
手続きサイトURL <https://member.finet.co.jp/fts/userLogin/>
- ②手続きサイトのご利用方法がご不明の場合のお問い合わせ先

ファイネット ヘルプデスク



0120-091-094 (年中無休7:30~23:00)



株式会社ファイネット

FINE FINET (ファイン・ファイネット)

Vol.52 2020 Winter 2020年1月1日発行

[発行](株)ファイネット 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町13-2 兜町偕成ビル7階
TEL.03-5643-3400 Fax.03-5643-3499 [編集・発行責任者] 久我 章良



FINET

<https://www.finet.co.jp>